平成３０年２月22日　VOL13号　近畿財務局証券監督第１・２課

CHIHOMEN NEWS

ベンチャー企業支援への取組み

～ にしなかバレーの鬼退治 ～

梅田と新大阪の真ん中に位置する西中島近辺は、関西のベンチャー企業の集積地として、注目を浴びる『にしなかエリア』。この地を米国のシリコンバレーのような『起業の聖地』とすべく、非営利団体である＜Nishinaka Valley（にしなかバレー）＞が盛り上げています。

迅速かつ大胆な挑戦が可能なベンチャー企業は、「日本再興戦略2016」（H28.6月閣議決定）においても、その創出が成長戦略の一つとして位置づけられています。

近畿財務局では、地方創生・地域活性化の取組みを続けており、ベンチャー企業の創出は地域の雇用や経済活性化になくてはならないものと考え、何かできることはないかとの思いで当企画を開催しました。

Nishinaka Valley

◆非営利団体として2016年に設立。大阪西中島近辺（梅田～新大阪）に拠点を置く企業、もしくは創業した企業が集まった団体
◆米国の「シリコンバレー」のような「起業の聖地」を目指すとしてネーミング
◆代表者：株式会社i-plug　中野　智哉　代表取締役社長
◆参加条件：西中島を中心に日本全国・世界に向けて何かサービスを作っていこうという志のみ！

1．にしなかバレー企業ヒアリング

今回の企画をすすめるにあたり、事前に「なぜ『にしなかエリア』にベンチャー企業が集まるのか」「にしなかの魅力」について、にしなかバレー企業の方々にお聞きしました。

にしなかで起業したきっかけ

◆ **交通の便がいい**

- 新幹線駅が近く東京への移動がしやすい
- 人材が集めやすい
- 梅田地域に歩いていける

Nishinaka Valley

◆ **家賃が安い**

- 家賃が非常に安くて助かる

◆ **起業家が集まっている**

- 刺激をもらうことができる
- 同じ価値観・境遇の若手起業家が多い
- 仕事で直接話したいと思ったときにすぐ会うことができる
- 熱い人が多い

にしなかのイメージ

来る前

◆ 飲み屋
◆ ただの歓楽街
◆ 勤務しにくい

来た後

◆ 近隣にベッドタウンがあり、交通の便もいいので人を採用しやすい
◆ 起業家が多く、起業しやすい街
◆ 色々な人がいて、尊敬できる人も多い

にしなかを漢字で表すと

『乱』
いろんな業態の企業で乱れている

『熱』
熱意がある人が多い

『由』
自由な街

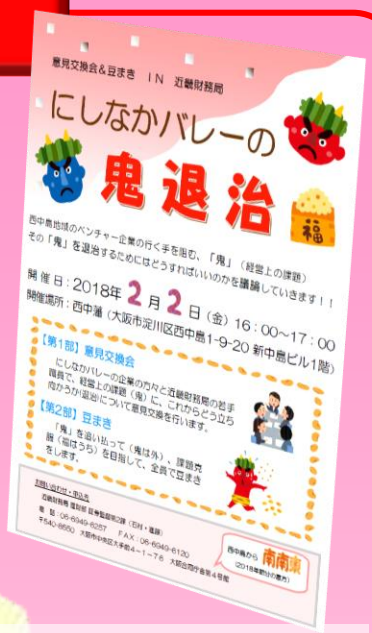
『楽』
楽しくて賑やかな街
起業家にとって、いると楽しい場所

『便』
便利な街

『勢』
勢いのある企業が多い

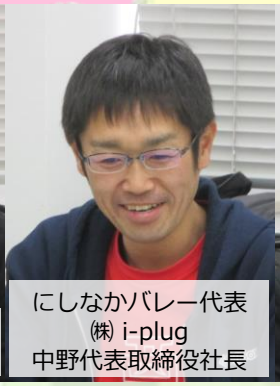
『賢』
有能な起業家が集まっている

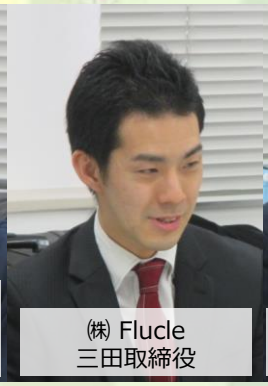
2．ベンチャー企業経営者との意見交換会



ヒアリングでお聞きした課題を深堀りするため、にしなかバレーのベンチャー企業の方々と意見交換会を平成30年2月2日に西中島にて開催しました。

イクラ ㈱
坂根代表取締役CEO


にしなかバレー代表
㈱ i-plug
中野代表取締役社長


㈱ Flucle
三田取締役

㈱ラジカルオプティ
青木代表取締役CEO

㈱ ノウリス
佐伯代表取締役

当日は5人の方々にご参加いただきました。（お一人、急きょ参加できなくなり、4人での開催と考えていたところ、開始30分前に中野社長の「一社呼びますよ！」との一声で、急きょ一社追加。さすが『にしなかベンチャー』のフットワークの軽さ！を見せつけられました。）

事前にお聞きした課題は大きく分けて4つ

- お金（資金調達　等）
- 人間（人材確保　等）
- 販路開拓（販路の拡大　等）
- 外注・仕入れ先（外注先確保）

意見交換会では、特に意見が多かった『お金』『人間』について、ベンチャー企業の行く手を阻む『鬼』（経営上の課題）を退治するためにはどうすればいいのか議論しました。

意見交換会での主な意見

お金

“金利の低さよりも融資枠！”

⇒ **金利が高くてもいいから少しでも多く融資してほしい**

- 金融機関は融資の好条件として金利の低さを提示するが、金利よりも枠が大きい融資メニューを作ってほしい

“財務諸表だけでなく、事業計画も見てほしい！”

⇒ **過去の実績だけ見てはベンチャーはわからない**

- 金融機関は過去の実績（財務諸表）に目を向けがちだが、成長性（事業計画）を見てほしい

人間

“即戦力求む！”

⇒ **人材確保・育成もコストがかかる**

- 人手不足の中、即戦力の確保が困難
- 従業員数が少ないので、人材教育に失敗するとダメージが大きく効果的な人材育成が課題

“ベンチャー企業を知ってほしい！”

⇒ **ベンチャー企業の魅力を理解して**

- ベンチャー企業を志望する学生はいるものの、周囲の理解が得られにくい

3．豆まき

非常に興味深い発言が多かった意見交換会の後、翌日は節分ということもあり、ベンチャー企業に立ちふさがる邪気を払うための豆まきを行いました。

「にしなかバレーの一番いいところは、楽しい雰囲気があるところ（中野代表）」と仰るように、予想以上（？）に大盛り上がりとなりました。

4．終わりに

意見交換会の模様は新聞にも取り上げて頂き、にしなかバレーの注目度の高さが伺えます。

近畿財務局としましても、地域に芽吹いたベンチャーの芽を本格的・持続的なものとするために、意見交換会においてお聞かせいただいたベンチャー企業の抱える課題等について、地方自治体や金融機関、或いは企業など、財務局においてこれまで培ってきた様々な人脈・ネットワークを活用し、どのような課題解決型のイベントができるかを考えてまいりたいと思います。